

丹波縄文の森塾 活動報告



令和7年1月18日（土） 晴

飛行機づくり



かなり冷え込んだ朝でしたが、お昼ごろには暖かさも感じられる快晴の一日。きょうは、飛行機づくり、シイタケ原木の玉切り、凧づくりを体験しました。飛行機の材料は、杉本指導員お手製の紙飛行機セット。厚紙の主翼、水平尾翼、垂直尾翼を割り箸の本体にグルーガンで糊付けて完成。主翼や尾翼を曲げるなど工夫をして、よく飛ぶ方法を考えました。

シイタケ原木の玉切り



12月に枝を切り落としたシイタケの原木を、今回は1mごとに切り分ける作業（玉切り）をしました。太いところは20cm以上もあり、ノコギリで切るのはなかなかでしたが、みんなで協力して30本ほどの丸太ができました。次は、この丸太にシイタケの菌を打ち込む予定です。

凧づくり



1月7日に七草がゆを食べる伝統がありますが、きょうの昼食は、それにちなんで、七草風おかゆとうどんでした。昔から受け継がれてきた日本の食文化を味わいました。デザートに、サポーターから焼き芋もいただきました。



午後は、山崎指導員による凧づくり。材料は、ビニール袋と竹ひご、そして凧糸。ビニール袋の隅をハサミで切り取り、袋状になっているところを切り離すと二人分の凧になります。テープで二本の竹ひごを縦に取り付け、凧糸を結べば完成。外で飛ばしてみると、驚くほど高く揚がりました。きょうも楽しい体験ができたことに感謝です。



凧のできあがり



昨日（1月17日）は、阪神・淡路大震災から30年の日でした。地震、台風、水害、火山の噴火など災害の多い日本に生きる私たちにとって、災害に備えること、そして助け合いの心が大切です。縄文の森塾でも、様々な体験を通して「分かち合う心」「思いやりの心」、そして「助け合いの心」を育ててほしいと思います。